

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学部では、以下の順天堂大学医学部の教育目標に沿って設定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ各年次で定める基準に合格し、以下の資質・能力を身に付けた者に対し学士（医学）の学位を授与します。

1. 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術・技能が身に付いている。
2. 常に進歩する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する不断前進の態度・習慣が身に付いている。
3. 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心（学是「仁」）が涵養されている。
4. チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣が身に付いている。
5. グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養が身に付いている。

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後一貫教育を目指し、以下のカリキュラムを編成します。

1. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識と確実な技術を身に付けるため、1年次に少人数による特定の課題を議論と思考で進めるPBL(problem based learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。1年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の統合型カリキュラムを採用します。
2. 3年次には、科学的思考能力を高め、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。この課程で、将来研究者を目指す者には、研究医養成コースを設けます。
3. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を慮り、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に約1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。
4. 入学後の早い時期から病院実習、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療に参画することにより、多様な職種の特任家との連携や共同作業を行えるパートナーシップ能力の涵養を目指します。特に、4年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属6病院で患者を受け持ち、実際に医療サービスに加わることにより、臨床能力を身に付ける教育を行います。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学部

5. 国際社会に役立ち、豊かな教養を養うため、教養教育を重視するとともに、TOEFL・IELTS など実践英語を高学年まで課します。6年次の臨床実習では、海外での実習（2～8週間、留学先は自ら選べる）も提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。

学修成果は、論文作成・授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンスの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ健康科学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツ健康科学部では、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、スポーツと健康に関連した教育、ビジネス、福祉等の分野において、新たな職業ニーズにも対応できる人材の育成を共通の目標とします。この共通目標の下に、以下に定める資質・能力を身に付けた者に対して学士の学位を授与します。

<スポーツ健康科学部共通>

1. スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力
2. 協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力
3. スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観

<スポーツ科学科>

スポーツ健康科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に、『学士（スポーツ科学）』の学位を授与します。

1. スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能
2. スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力

<スポーツマネジメント学科>

スポーツ健康科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に、『学士（スポーツマネジメント学）』の学位を授与します。

1. 経営学、社会心理学、社会学等を応用したスポーツマネジメント学についての知識と技能
2. 国際的視野を持ち、ビジネス対象としてのスポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面からマネジメントできる能力

<健康学科>

スポーツ健康科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に、『学士（健康学）』の学位を授与します。

1. 健康を創造・支援するために必要な身体的・精神的・社会的健康についての知識と技能
2. 健康に関する専門性を活かし、人づくり、社会づくりに貢献できる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ健康科学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を実践するとともに、以下のとおり教育課程を編成・実施し、学修成果を適切に評価することで、教育方法の改善につなげていきます。

<スポーツ健康科学部共通>

1. 学部共通科目を設置し、所属学科以外の科目の相互履修を義務化しているほか、学部で開講されるゼミを含むほぼ全ての科目、医学部開講の一部科目を履修可能とし、学生の興味・関心に応える自由度の高い教育システムを提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ健康科学部

2. 1年次には、人文・社会・自然科学及び語学の基礎的教養科目に加え、学科ごとの基礎的科目を、2年次以降はより専門性の高い知識とスキルを身に付けるための科目を配置します。
3. 全学科で必修のゼミナールでは卒業論文の作成を通じて、丁寧な個別指導によって、身に付けた知識やスキルを統合し、各専門分野での探究力を深化させ、他者への伝達力を養成します。
4. コミュニケーション能力や倫理観については、寮生活や各種の実習等での協働を通じても養います。

<スポーツ科学科>

スポーツ科学科では、スポーツに関わる事象の原理を主として自然科学的に理解・究明・表現できる人材を育成することを目指し、1年次にはスポーツ医科学及びコーチング科学の基礎的科目を配置します。各自の学修目標と進路の違いに対応するため、2年次からは、スポーツ医科学コース、コーチング科学コースにおいて、それぞれが定める知識や能力を身に付けるための専門性の高い科目を配置します。

[スポーツ医科学コース]

1. スポーツに関わる諸事象を観察、実験及び数理モデルを用いて客観的に秩序正しく記述・説明することを通して、自然科学的立場からスポーツを理解する力を身に付けるための科目を配置します。
2. 科学的根拠に基づいた種々のトレーニングや健康・体力づくりに関する知識と方法を正しく理解し、競技力向上や人々の日常生活に応用できる能力を身に付けるための科目を配置します。

[コーチング科学コース]

1. スポーツに関わる諸科学の知見に基づく知識と方法を理解し、運動プログラム及び運動技能の研究開発に応用できる力を身に付けるための科目を配置します。
2. 初心者からトップアスリートまでの競技力向上及び人々の健康・体力づくりに必要な系統的・段階的な指導の知識と技術を身に付けるための科目を配置します。

<スポーツマネジメント学科>

1. スポーツマネジメント学科では、スポーツの経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」に関する基礎的知識を修得した上で、少人数による演習やインターンシップに参加できるように科目を配置します。
2. 1年次には、スポーツマネジメントの大まかな枠組みと関連分野の基礎学問の修得を目指した科目を配置します。2年次からの各論では、経営資源のいずれに興味を持つかにより専門科目を選択し、それぞれの側面から現状の問題点の把握、改善策について問題を掘り下げる能力を身に付ける科目を配置します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ健康科学部

<健康学科>

1. 健康学科では、身体的・精神的・社会的健康に関する科学的な知識を修得し、人々の健康づくりと健康支援に必要な技能を育むべく専門性の高い科目を体系的に配置します。
2. 1年次では、健康づくりと健康支援についての科目を配置し、2年次からは現代日本における教育・社会・環境・精神保健・福祉などの各論を配置することにより、健康を創造・支援できる能力を身に付ける科目を配置します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療看護学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医療看護学部は、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力
2. 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力
3. 関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力
4. グローバリゼーションが進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力
5. 自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療看護学部のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下に示す方針に基づいて授業科目を「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「医療看護の統合と発展」の4つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成します。また、学修成果を適切に評価します。

1. 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる看護職者としての人間性を涵養するためにリベラルアーツ関連科目と専門を学ぶ上で必要な授業科目を全学年にわたりバランスよく配置します。
2. 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて、エビデンスに基づいた看護を実践するために必要となる知識・技術を着実に身に付けるための授業科目を系統的に配置し、高度な専門教育につながるカリキュラムを提供します。
3. 看護師・保健師・助産師としての実践能力を段階的に獲得するように授業科目を編成します。保健師や助産師の資格取得を希望する者にはそれぞれに必要な授業科目を適切な時期に配置します。
4. 実習・演習は、関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために、保健医療チームの一員として多様な職種と連携できる看護職者を涵養する内容の授業科目を配置します。特に、分野別実習では、看護職者として必要となる基本的態度を身に付けます。
5. グローバリゼーションに対応できる看護職者となるために必要なリベラルアーツ関連科目を全学年に渡りバランスよく配置します。
6. 自己の知識、技術、態度を自ら客観的に評価し、他者からの評価を真摯に受けとめ、探求心を持って自己研鑽する態度を身に付けるために、授業におけるアクティブ・ラーニングを促進します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療看護学部

7. 学修成果の評価は、授業の進度に合わせシラバスに明示された学修目標とコンピテンスに基づく小テスト・定期試験・レポート、実習評価等を含め、総合的評価を行います。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健看護学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

保健看護学部にて4年以上在学し、学是である「仁」の精神を基盤に、「心身を癒す看護実践能力を修得する」という学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 他者への思いやり、慈しむ心を持ち、心身を癒す看護を実践できる能力
2. 看護を必要としている人々に対して、科学的根拠に基づき看護を実践できる能力
3. 保健医療福祉における看護職者の専門性を自覚し、他職種と連携、協働できる能力
4. グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うために、国際的視野を持ち、異文化を理解する能力
5. 看護への関心を深め、探究心を持って研究に取り組むことができる能力
6. 自らの健康維持増進に留意して行動的に学び続けることができる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健看護学部の教育課程は、「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の4つの科目群により構成され、段階的に理解力が深められるように工夫しています。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンスの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

1. 人間性に対する深い洞察力を養う授業科目を初めに置き、健康を支える生活や社会の仕組みを理解し、看護実践に必要な知識・技術及び態度を修得する授業へ進み、次いで保健看護の統合と発展を考えるように編成します。
2. 看護実践に必要な知識・技術及び態度を修得する授業科目を初年次より配置し、実習を開始します。
3. 心身を癒す看護を目指し、臨地実習を通して段階的に看護実践能力の向上を図るよう編成します。
4. カリキュラム全体を通して、人間を理解し、生命倫理・環境倫理の上に立って、保健医療福祉の分野における看護のあり方や他の専門職者との連携について学修します。
5. 異文化を理解し国際的視野を持ち、看護職者の活動の場と役割を理解できるよう、海外研修を行います。（選択）
6. 看護職者に必要な生涯学習・自己研鑽能力及び研究的態度を、1年次の教養ゼミナールや3・4年次の看護研究等を通じて修得できるように編成します。
7. 各科目において教育方法の工夫を行い、授業・実習において学生の主体的・能動的学習を促進します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

国際教養学部では、本学の学是「仁」、理念「不断前進」、学風「三無主義」の精神の下に、「グローバル市民の育成」という教育目標に沿って設定されたカリキュラムを履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、「学士（国際教養学）」の学位を授与します。

1. グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力
2. 自分とは異なる人間や文化を理解しようとして心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力
3. 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力
4. グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部では、学是「仁」、理念「不断前進」、学風「三無主義」の精神の下に、「グローバル市民」を育成する教育課程として、4年間にわたる国際教養教育を次のとおり編成します。

【導入期】

1. 基礎演習によるコミュニケーション能力の育成
前期は「プレゼンテーション」、後期は「ファシリテーション」を体験することで、グローバル市民として必須なコミュニケーション能力の基盤を培います。
2. 国際的な広がりを持つリベラルアーツを醸成する基盤科目
健康・医療などに関連する分野を含む幅広い教養及び外国語を、文系、理系にとらわれない基盤科目として学び、広く、深い教養と豊かな人間性・倫理観を培います。
3. 複言語主義と言語文化アプローチに基づく1、2年次の外国語教育
「グローバル市民」として求められる外国語コミュニケーション能力を習得できるよう、「複言語主義」に基づき、国際英語科目以外に、もう1つの外国語としてフランス語、スペイン語、中国語から1言語を履修します。授業では、異文化コミュニケーションを学び、体験できる「言語文化アプローチ」を導入します。TOEFLなど国際標準の能力測定試験を用いて能力の向上を測定します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部

4.3 領域への導入

初年次に「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」を履修し、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスという3つの領域に触れ、領域間の関係性について学びます。

【形成期】

5.3 領域からなる展開科目

形成期に入る2年次には、各領域の概論科目を必修として履修し、各自の関心に応じて1領域を選択します。3年次以降は、3領域に関する科目を展開科目として設定します。

グローバル社会領域では、持続可能な未来へ向けて、グローバル化をめぐる問題を学び、グローバルヘルスサービス領域では、身体、健康、生命などに関して日本や世界が抱えている諸課題を学び、そして異文化コミュニケーション領域では、異質な文化とのコミュニケーションが内包し、表象する課題について深く理解し、多文化/多言語社会の構築に寄与する方途を学びます。

6. 専門的な外国語教育と海外留学・研修

将来の進路を念頭に自主的に英語を学習できる「目的別英語科目」を揃え、また、フランス語、スペイン語、中国語では選択科目として上級コースを配置します。海外留学の道が開かれており、「海外研修プログラム」も課程外の取り組みとして設定します。

【完成期】

7.3 領域をまたがる複眼的思考の醸成

学生が自ら選択する1領域に加え、他領域の授業科目についても領域横断的に履修することにより、複眼的思考を可能にする知見を得られるような教育編成とします。

8. 演習科目による専門性の強化

3、4年次の「グローバル市民演習」では各自が選択した領域に関連する課題について研究します。

9. 卒業論文の作成

各自が選択した領域に加え、場合によっては他領域での学びも組み込み、卒業論文を作成します。

【キャリア形成における2つの柱】

10. キャリア教育の単位化

入学直後の初年度から、学生の社会的・経済的自立を促すキャリア教育の充実にも重点を置き、キャリア科目をカリキュラムとして編成し、正規の科目として単位化します。

11. 教員免許（英語）を取得できる教職課程

指定された科目を履修し所定の単位を取得すれば、中学校及び高等学校教諭（英語）の1種免許を取得できます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部

【学修方法】

12. 主体性を引き出すアクティブ・ラーニングの実践

学修方法として、少人数授業と協同学習を活用し、学生が主体的に関わるアクティブ・ラーニングを実践します。

【学修成果の評価】

13. 学修成果の包括的評価

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンスの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。